

令和4年 病害虫防除指導情報 第9号

作物名：ながいも
病害虫名：葉渋病・炭疽病

葉渋病・炭疽病の発生が広く認められています。
発生量は平年よりかなり多く、発病葉率が30%越えるほ場がみられ、
気温上昇・脱水に伴う発病葉の枯死、落葉も確認されています。
～ 今後の発生拡大を防ぐため、薬剤防除を徹底してください。～

1. 発生状況

- (1) 8月の大雨により、ほ場が冠水したり、雨水が長く停滞したほ場では、吸収根が傷み、樹勢が弱まっているため、葉渋病、炭疽病に罹りやすい状態となっている。
- (2) 9月上旬巡回調査における葉渋病の発生量は県南地域を主体に多発傾向にあり、既に発病葉率が30%を越えるほ場が確認されている（表1、図1）。また、台風11号通過後の気温上昇により、発病葉が脱水枯死し、激しく枯れ始めているほ場もみられる（写真1、2）。
- (3) 炭疽病の発生量は、津軽地域、県南地域ともに平年より多く推移しており（表2、図2）、発病葉率が30%を越えるほ場もみられる。また、年子栽培の発生ほ場では既に下位葉から枯れ始めたほ場も散見されている（写真3、4）。炭疽病は葉渋病と比較して、より病勢の進展が激しいため、今後も降雨日が多い場合には急激にまん延するおそれがある。

表1 9月上旬巡回調査における葉渋病の発生状況

調査時期	地域	年次	調査地点数	発生程度別地点率 (%)					発生地点率 (%)	平均発病葉率 (%)
				甚	多	中	少	微		
9月上旬	津軽	本年	15	0	0	0	20.0	33.3	53.3	1.39
		平年	11	0	1.4	5.4	10.9	12.2	29.9	1.79
	県南	本年	55	7.3	5.5	5.5	45.5	16.4	80.0	10.19
		平年	40	0	1.0	2.5	15.5	20.3	39.3	1.46
	県計	本年	70	5.7	4.3	4.3	40.0	20.0	74.3	8.30
		平年	51	0	1.1	3.1	14.3	18.5	37.0	1.54

注) 発生程度：甚 発病葉率51%以上、多 同31～50%、中 同11～30%、少 同1～10%、微 1%未満

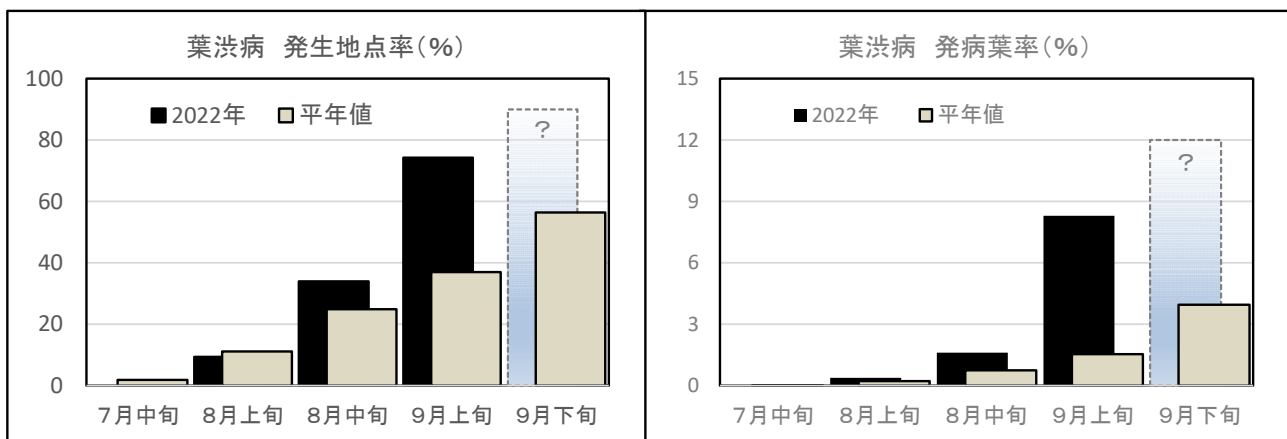


図1 巡回調査における葉渋病の発生推移

注) 表中、9月下旬の破線は予想値(?)を示す。

表2 9月上旬巡回調査における炭疽病の発生状況

調査時期	地域	年次	調査地点数	発生程度別地点率 (%)					発生地点率 (%)	平均発病葉率 (%)
				甚	多	中	少	微		
9月上旬	津軽	本年	15	0	0	0	33.3	13.3	46.7	1.02
		平年	11	0	0	0	4.0	5.7	9.7	0.30
	県南	本年	55	0	3.6	0	9.1	20.0	32.7	1.60
		平年	40	0	0	0	0.5	5.3	5.7	0.06
	県計	本年	70	0	2.9	0	14.3	18.6	35.7	1.47
		平年	51	0	0	0	1.3	5.6	6.9	0.11

注) 発生程度：甚 発病葉率51%以上、多 同31~50%、中 同11~30%、少 同1~10%、微 1%未満

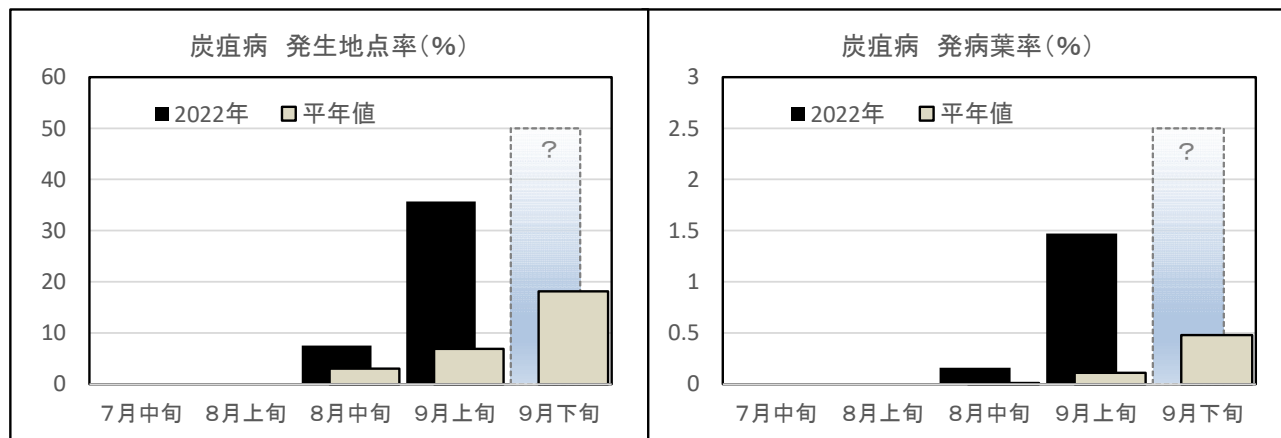


図2 巡回調査における炭疽病の発生推移

注) 表中、9月下旬の破線は予想値(?)を示す。

〔写真1〕 葉渋病の多発ほ場 (黄白化葉の発生)



〔写真2〕 葉渋病；枯れ上がり症状と白点病斑の多発 (黄白化葉)



〔写真3〕 炭疽病の多発ほ場 (下位葉からの落葉)



〔写真4〕 炭疽病；褐色病斑の周囲が黄色味を帯びる (ハロー)



2. 防除対策

- (1) 葉渋病、炭疽病ともに、気温20～25℃で曇雨天が続くと発生しやすく、例年9月頃から発生量が増加する傾向がある。向こう1か月(9/10～10/9)の降水量はほぼ平年並、気温は高く、特に前半の気温はかなり高い見込みであることから、今後も感染に好適な条件が続くと予想される。
- (2) 多発してからの薬剤散布では効果が低いことに留意し、農作物病害虫防除指針等(表3)で葉渋病や炭疽病に適用のある薬剤を7～10日間隔で2～3回程度散布する。
- (3) 濃霧や雨の日が続くような場合や、病勢の進展が激しい場合は散布の間隔を短くする。また、ネット上部に繁茂した茎葉の葉裏や地際部の下葉にも十分薬液がかかるように丁寧に散布する。

----- 農薬を使用する際には、必ず最新の農薬登録情報を確認してください -----

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp>

(独) 農林水産消費安全技術センター「農薬登録・速報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/index/index.htm>

また、農薬使用基準(適用作物・収穫前使用日数・有効成分の総使用回数等)を遵守するとともに、隣接する畑や周辺作物へ農薬が飛散しないように十分配慮しましょう。

表3 葉渋病・炭疽病の防除薬剤一覧

(令和4年度農作物病害虫防除指針より抜粋)

農薬名	FRコード	有効成分名	使用方法				適用病害虫名		
			希釈倍数	使用時期	使用回数	有効成分総使用回数	葉渋病	炭疽病	
Zボルドー	M01	塩基性硫酸銅	500	—	—	—	○		
フジドーLフロアブル	M01	塩基性硫酸銅	500	—	—	—	○		
コサイド3000	M01	水酸化第二銅	2000	—	—	—	○		
キノンドー水和剤40	M01	有機銅	600	収穫14日前	5回	5回以内	○		
シトラノフロアブル	M01	有機銅	1000～1200	収穫30日前	5回		○		
	M05	T P N	1000				6回以内		○
ダコニール1000	M05	T P N	1000	収穫30日前	5回		◎	◎	
ベルコートフロアブル	M07	イミノクタジナルベシル酸塩	1000	収穫7日前	5回	イミノクタジンを含む剤5回以内(種いもへの処理は1回以内、無人航空機散布は3回以内)	○	○	
ベルコート水和剤	M07	イミノクタジナルベシル酸塩	1000	収穫7日前	5回		○		
ジマンダイセン水和剤	M03	マンゼブ	600	収穫21日前	4回	4回以内	○	○	
ラビライト水和剤	M03	マンネブ	400	収穫14日前	4回		○	○	
	1	チオファネートメチル							
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	800	収穫7日前	5回	5回以内	◎	◎	
フロンサイド水和剤	29	フルアジナム	2000	収穫7日前	4回	5回以内(植付前の土壌混和は1回以内、植付後の散布は4回以内)	◎		
フロンサイドSC	29	フルアジナム	2000	収穫7日前	4回		○		
ストロビーフロアブル	11	クレソキシムメチル	2000	収穫7日前	3回	3回以内	◎		
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	2000	収穫前日	3回	3回以内	○	○	
オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール	1000	収穫前日	3回	3回以内	◎		

◎印は、各々の病害虫を対象に「むかご」にも使用できることを示す。

ただし、トップジンM水和剤、ダコニール1000は、ながいもに使用する場合と収穫前日数が「収穫45日前」と異なるので注意する。

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

《この情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 ☎030-0113 青森市第二問屋町4-11-6

TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900

担当:主幹専門員 及川 健

※当情報は青森県農業情報サービスネットワーク「アップル農場:病害虫防除情報(<https://www.applenet.jp>)」に掲載しています。